

えらい若者がいたものだ！

「すなっぷ」記事取材をする中で大学生の姿に感心させられた。すごい！えらい！がんばるね！とあらゆる賛辞を捧げたくなる。それは大人が若者を頼もしく思う気持ちと少し違う。還暦を過ぎた私よりももっとしっかりした生き方をしていると思う。そういう意味で「すごい」と感じた。この清々しい気持ちは政局のニュースからは得られない。



沼田翔二郎代表理事の話に驚いた。大学入学以来4年間、DNA活動を経験し、大学院に進学した今年、現職についた。DNA抜きで大学生活を語ることはできないだろう。その彼に将来のことを聞いた。DNAに就職したいというのだ。「食っていけるのですか」と聞いたら「わからない」と答えた。会員からの会費が資本の活動から人を雇えるだけの余裕をうむことは容易ではないはずだ。指導者の大宮教授も父親も「賛成」とは言わなかった。当然だろう。しかし彼は背筋を伸ばして自分の将来を語るのだ。大宮教授が4年後に定年を迎えることと無関係ではなさそうだ。えらい若者がいたものだ。大きな体に長い手足。このサイズに見合った能力と夢と強靱な精神をもっているようだ。

大宮先生に会いたい

沼田さんの話を聞いて、どうしても大宮先生に会いたいと思い、瀧口代表とともに大学を訪ねた。私が確かめたかったのは学生さんがしきりに言う「先生の優しさ」と沼田さんをここまで成長に導いた先生の指導力の正体を突き止めたかった。

先生の答えは「すなっぷ」記事本文に書いたとおり。人格を認めながら率直な意見交換をするというコミュニケーションのありかたにあった。それが本当の優しさだと強調した。プロジェクトを立案しそれに取り組むことで、関わる人たちが成長するという Project Based Learning の理論も説明してくれて納得した。学生に正面から向き合うための材料をいっぱい持っている人だった。学生が慕うのがよくわかる。

しかし先生に聞きたいことはまだある。本当に真剣にコミュニケーションを築こうと思ったら相手の心に分け入るような厳しい場面も出てくるはず。そういう時に私はつつい遠慮してしまう。人格を尊重しつつ垣根を乗り越える勇気がもてない。いつか機会があったら酒でもものみながらその辺を聞いてみたい。しかし相当な酒豪らしいから飲まれないように気をつけよう。

